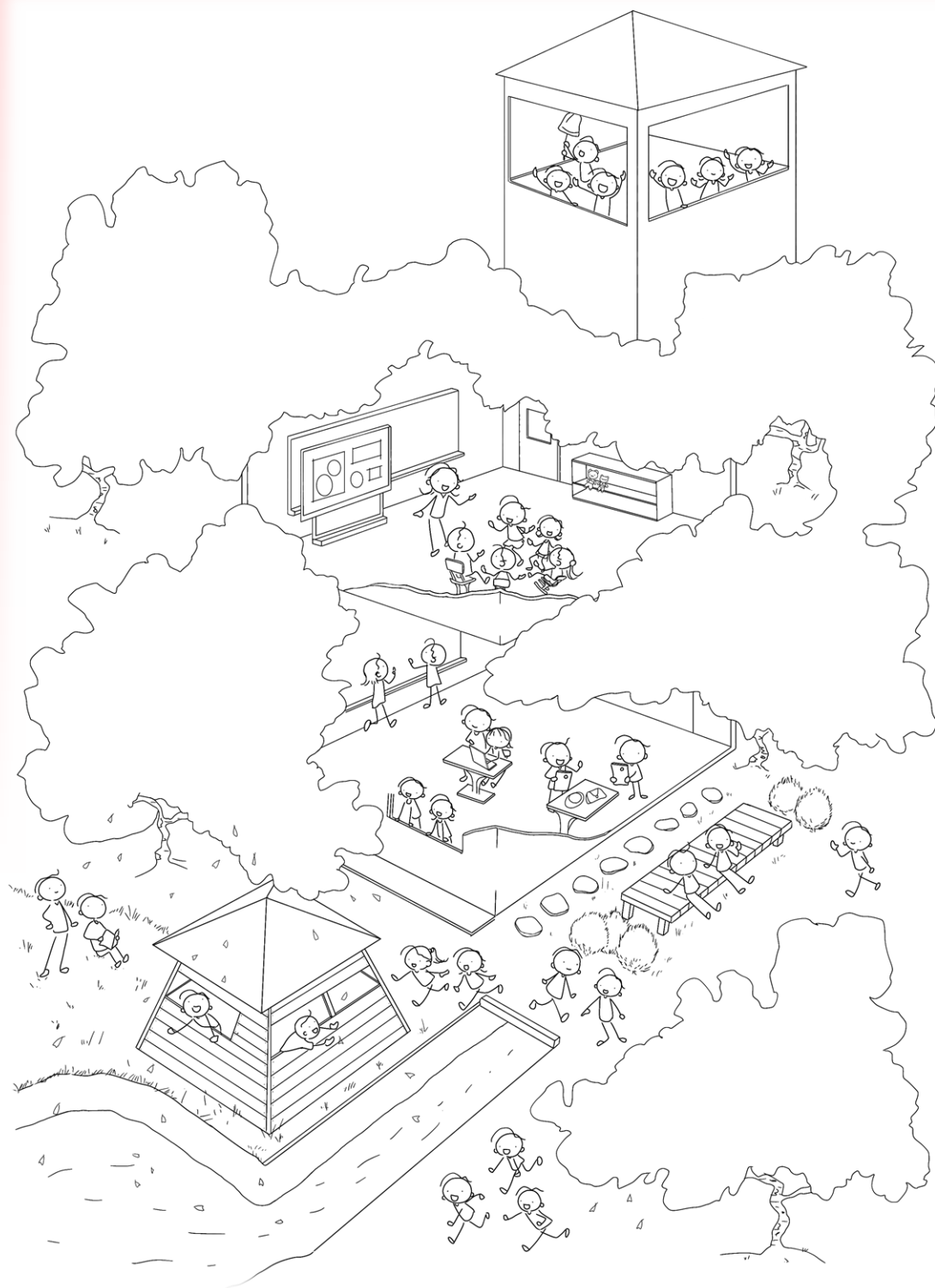


そう、道徳は楽しい

「特別の教科 道徳」 アシスト + *plus*



令和3年3月

長野県教育委員会

長野県の道徳教育

道徳教育とは

道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、同時に、民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものです。また、道徳教育を通じて育成される道徳性、とりわけ、内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度、豊かな情操などは、「豊かな心」だけでなく、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むために極めて重要なものです。

道徳教育の目標

他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

「考え、議論する道徳」へ

道徳教育は、児童生徒の人格の基盤となる道徳性を養う重要な役割があることに鑑みれば、本県においても、その充実に取り組んでいく必要があり、指導方法の工夫を図ることなどが求められます。

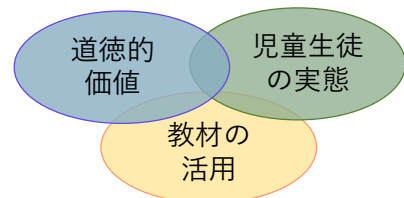
このことは、「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」との平成26年中央教育審議会答申を踏まえ、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものです。

夢や希望などを共に語り合う

特に、道徳科の学習では、これまでも長野県で実践されてきたように、教師が生徒と共に人間の弱さを見つめ合い、考え合った上で、夢や希望などを共に語り合うような姿勢をもつことが大切になります。

<もくじ>

- P1 長野県の道徳教育
- P2 道徳科の授業構想
- P3 道徳科の主題と学習指導過程
- P4 主体的・対話的で深い学び（「考え、議論する道徳」）の視点からの授業改善
- P5 道徳科の評価について
- P7 生きて働く指導計画の作成
- P9 コロナ禍における指導について
- P10 道徳科の授業におけるICTの活用
- P11 実践事例 A 小学校（令和2年度長野県道徳教育研究推進校）
- P12 実践事例 C 中学校（令和2年度長野県道徳教育研究推進校）



指導の意図を明確にするために



ねらいとする道徳的価値（内容項目に含まれるもの）について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもちます。

- 道徳的価値の意義を理解し、指導の考え方を明確にする。

ねらいとする道徳的価値について、日頃どのような指導を行い、その結果としての児童生徒にどのようなよさや課題があるのか、その上で、本時で学ばせたいことは何かを明らかにします。

- 日頃の教育活動を振り返り、児童生徒の実態を明確にする。

授業者の意図、児童生徒の実態をもとに、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにします。

- 指導の意図を明確にした教材の活用、学習展開を明確にする。

道徳的価値

児童生徒の実態

教材の活用

本時の道徳科の授業で、道徳性の諸様相のどの様相に焦点を当てることが決まります。

道徳性の諸様相

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度を養うことを求めています。

これらの道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではありません。一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるようになるような内面的資質を意味しています。



道徳的判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道徳的实践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

道徳科の主題

授業には、ねらいと教材で構成した主題があります。

ねらい

道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したもの



教材

教科用図書やその他、授業において用いる副読本等



主題名

ねらいと教材で構成し、授業の内容が概観できるように端的に表したもの

※主題設定の理由等の記述にあたっては、児童生徒の肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方を心掛けるようにします。

道徳科の学習指導過程

※特に決められた形式はありませんが、一般的には導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。

導入

主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階

- 本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入
- 教材の内容に興味や関心をもたせる導入 など

展開

ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる段階

- 児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進める
- 児童生徒がどのような問題意識をもち、どのようなことを中心にして自分との関わりで考えを深めていくのかについて主題が明瞭となった学習を心掛ける

終末

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

- 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる
- 学んだことを更に深く心にとどめる
- これからの思いや課題について考える

学習指導過程や指導方法の工夫

手段



主体的・対話的で深い学び

「考え、議論する道徳」

- 問題意識をもつ
- 自分との関わりで捉えて考える
- 多面的・多角的に考える
- 自らを振り返る
- 自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

目的

道徳的な判断力、心情、
実践意欲と態度を育てる

※特に、次の2つの視点からの授業改善を進めましょう。

● 自分との関わりで捉えて考える

読み物教材の登場人物の心情理解にのみに終始せず、「自分だったら…」と自分事として考えることができるようにします。

- (例)
- ・教材の登場人物に自分を置き換えて考える。
 - ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考える。
 - ・日常生活や学校生活等を想起しながら考える。

● 多面的・多角的に考える

他者と対話したり協働したりしながら、様々な視点から物事を理解する学習を通して、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育みます。

価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。

人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること。

問題解決的な学習の工夫

道徳科における問題とは道徳的価値に根差した問題であり、単なる日常生活の諸事象とは異なります。

道徳的な問題（例）

- ① 道徳的価値が実現されていないことに起因する問題
- ② 道徳的価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題
- ③ 複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題 など

問題解決的な学習では、教師と児童生徒、児童生徒相互の話合いが十分に行われることが大切です。

道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫

自分との関わりで多面的・多角的に考えるために、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられます。

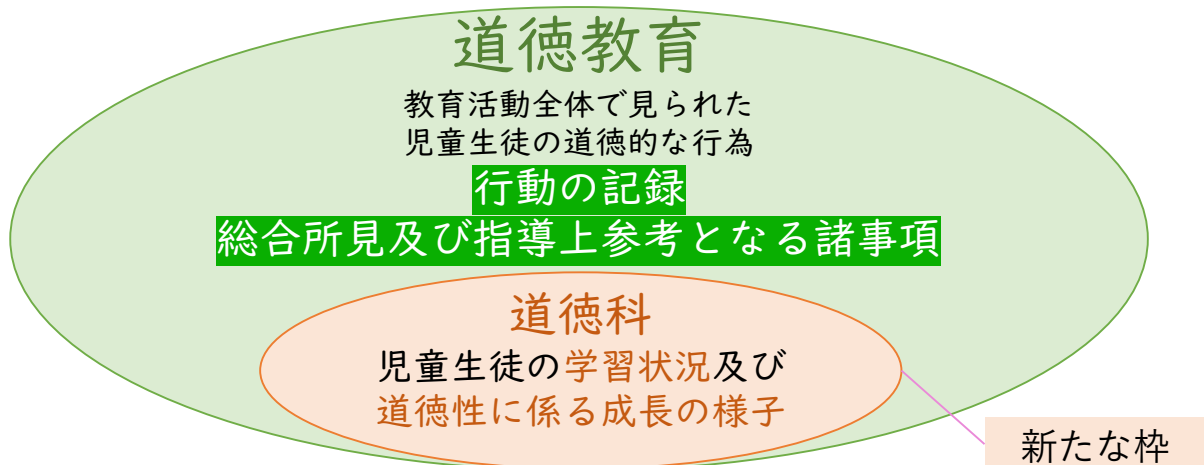
- ① 実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為を通して、礼儀のよさや作法の難しさなどを考える。
- ② 教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など、疑似体験的な表現活動を取り入れた学習。



○ 道徳科の評価について

1. 道徳教育と道徳科の評価

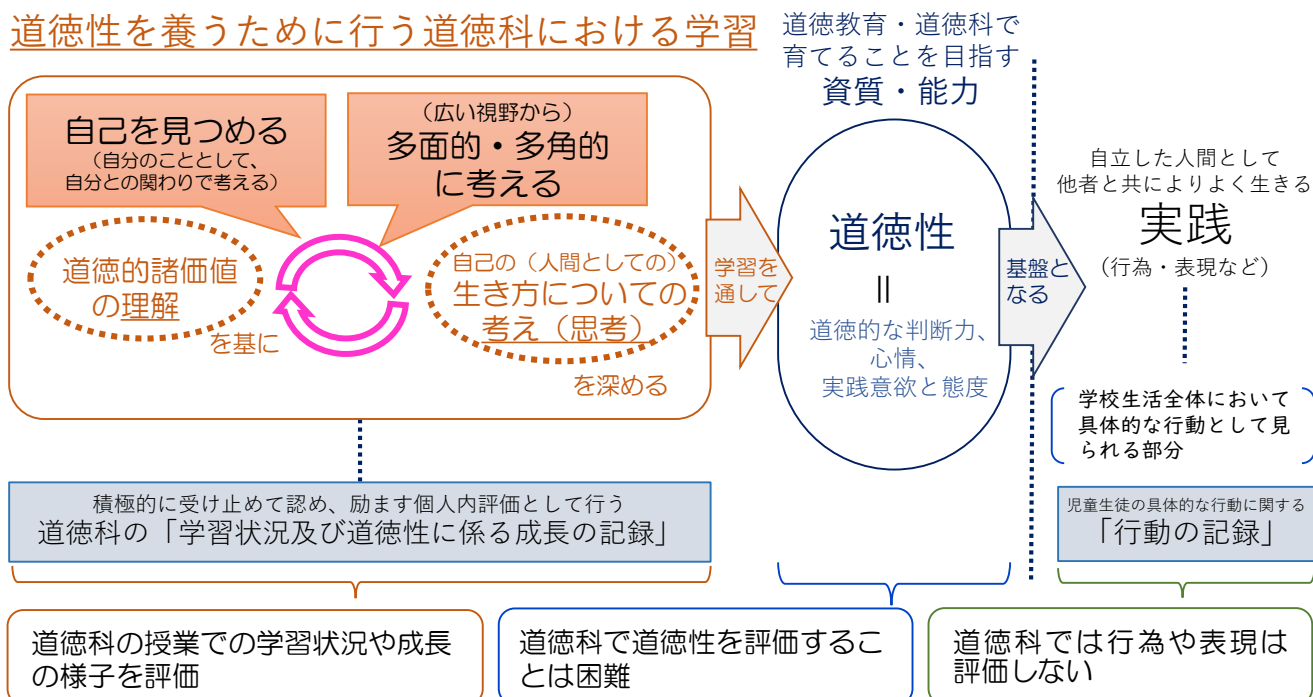
評価の公的な文書である「指導要録」の場合



- 教育活動全体で見られた児童生徒の道徳的行為についての評価は指導要録の「行動の記録」や「総合所見及び指導上参考となる諸事項」へ記入。
- 児童生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子についての評価は指導要録の「特別の教科 道徳」へ記入。

2. 道徳科の学習活動と評価のイメージ

道徳性を養うために行う道徳科における学習



注) 道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり、これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる

参考資料：「NITSオンライン研修(道徳教育指導者養成研修)」
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見哲也氏 講義資料
「平成29年度道徳教育指導者養成研修(中央指導者研修)」
文部科学省初等中等教育局 主任学校教育官 小野賢志氏 講義資料

3. 道徳科における評価の視点

道徳的諸価値についての理解を基に

(1) 子供が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。

(2) 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

自己の（人間としての）生き方について考えを深める。



評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、上記の(1)(2)の点を重視することが重要です。

4. 道徳科において、子供の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、評価に活用するための工夫

1単位時間の授業での子供の発言や感想文、質問紙の記述等から見取る例

◆一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

(例) Aさんは、本当の親切とはどのようなことかを自分の立場と相手を比べながら考えていた。

◆道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

(例) Bさんは、教材のお話と身近な祖父の死を重ね、生命は唯一無二のかけがえのないものであることを実感していた。

子供の学びを見取り、評価に活用するための具体的な工夫として、例えば、子供の学習の過程や成果などの記録を計画的に蓄積していくことや、道徳性を養っていく過程での子供自身のエピソード（上記例示）を累積していくことが考えられます。



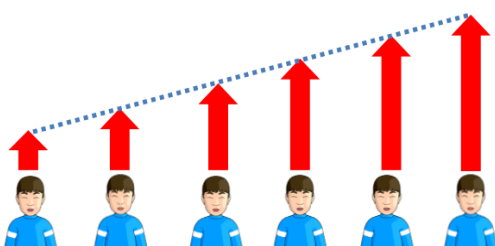
5. 大きくくりなまとまりを踏まえた個人内評価

学習状況や道徳性に係る成長の様子を**継続的**に把握

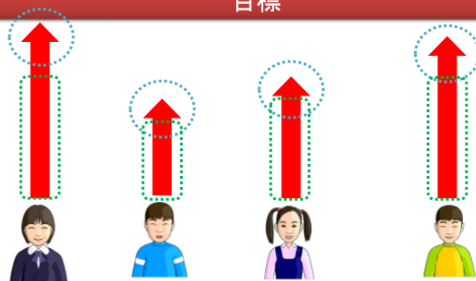
成長を受け止めて**認め、励ます**個人内評価

目標 目標 目標 目標 目標 目標

目標



学習状況を時間的に縦に並べて、進歩の状況を認める



他者との比較ではなく、子供一人一人のよさを把握する

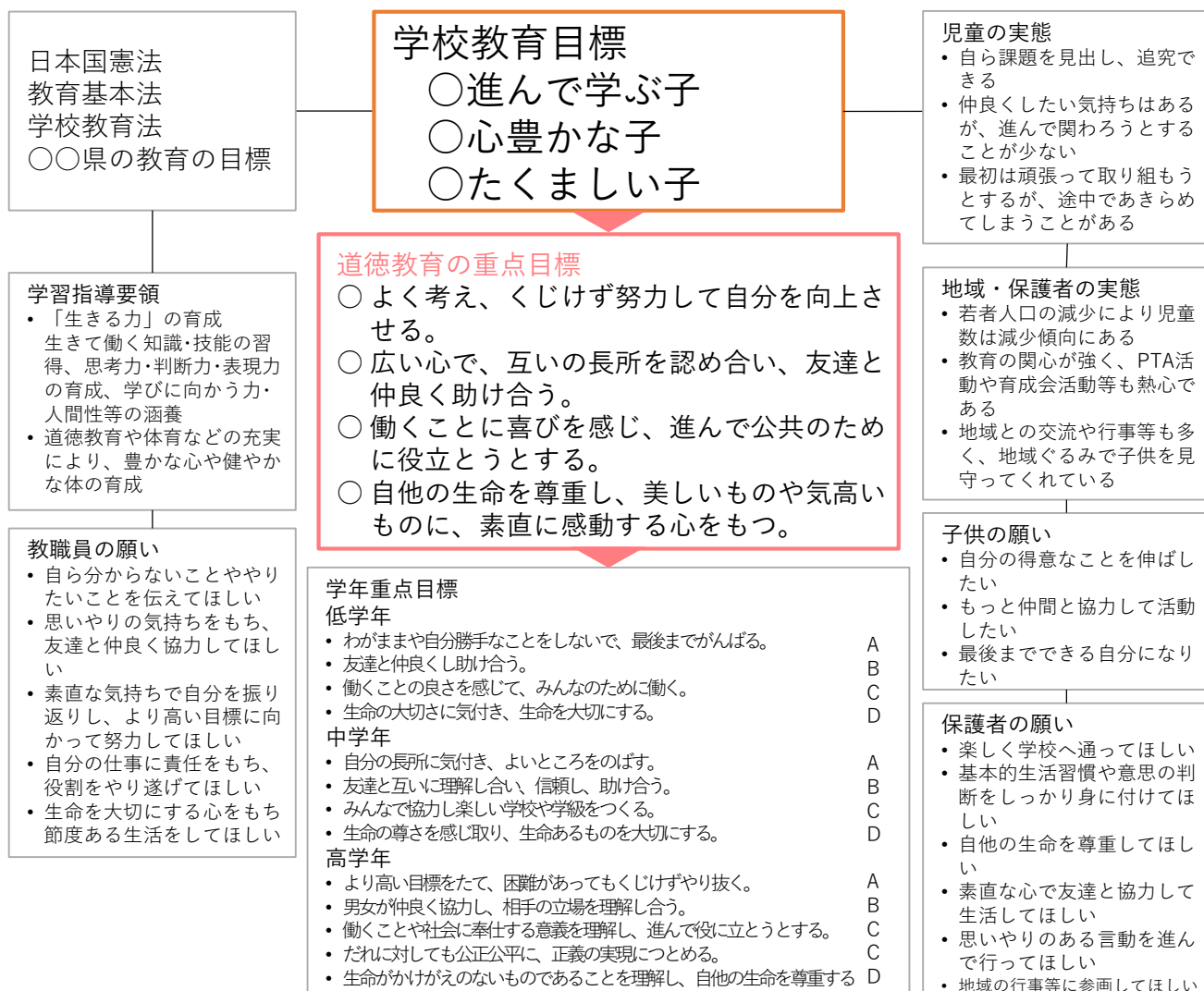


上記4項で例示したような子供一人一人の見取りを毎時間積み重ね、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、子供の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握します。そして、他者との比較ではなく、子供がいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価として記述式で行います。

自校の道徳科を道徳教育の要とするために...

道徳教育の全体計画等の見直し

- ①道徳教育で育てたい子供像を明確にする
→道徳教育の重点目標を設定する
- ②各学年の重点目標、内容項目の重点を設定する
- ③道徳科の指導方針を明確にする



道徳教育推進教師の役割 (例) 全体計画の見直し

校長先生の明確な方針の下に、道徳教育推進教師が中心となって、全体計画の見直しを適宜行うことで、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の指導が充実します。それが、道徳科の指導のより一層の充実につながっていきます。



道徳教育の重点目標を具体化するために...

重点的な指導ができるように工夫する

- (1) 各教科等と内容項目のつながりを明確にする
- (2) 特色ある教育活動や豊かな体験活動との関連を図る
- (3) 重点的に指導しようとする内容項目の指導時間数を増やす
 - ・一定の期間をおいて繰り返し取り上げる
 - ・何回かに分けて指導するなど
- (4) 一つの主題を2単位時間にわたって指導する

【道徳教育
全体計画 別葉】

【道徳科
年間指導計画】

【道徳教育全体計画 別葉の例】

内容項目	国語	算数	...	学校行事	...
...		
礼儀	お願いやお礼の手紙を書こう (10月)			入学式 (4月) 卒業式 (3月)	
...		
規則の尊重	図書館へ行こう (6月)	折れ線グラフと角の大きさ (11月)		運動会 (5月) 校外学習 (9月)	
...		

【道徳科年間指導計画 主題配列の工夫の例】

学期	月	週	回	主題名	内容項目	教材名 (教科書以外の出典)	備考
1 学期	4 月	1	1	一日の始まり	B 礼儀	〇〇〇〇〇	二つの教材を用いて、連続する2時間で組む
		2	2	安全な生活	A 節度、節制	〇〇〇〇〇	
		3	3	きまりは何のために	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇	
	5 月	1	4	権利と義務	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇 (●●資料集)	短い期間の中に、2回組む
		2	5	自他の生命の尊重	D 生命の尊さ	〇〇〇〇〇 (「私たちの道徳」文科省)	
		3	6	まごころの形	B 礼儀	〇〇〇〇〇	
		4	7	長所と短所	A 個性の伸長	〇〇〇〇〇	

道徳教育推進教師の役割 (例) 年間指導計画の作成

道徳教育の全体計画に基づく道徳科の年間指導計画を作成すると、計画的、発展的な指導が可能となります。そして、学習指導案を立案するよりどころとなったり、教師間の研修の手掛かりになったりもします。



コロナ禍における指導について

新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて、令和2年8月25日に文部科学大臣からメッセージが発表されました。コロナ禍において、この状況下において大切にしたい内容項目の重点化や、道徳教育の全体計画の見直しなど、道徳教育の充実を図る工夫が求められています。



このような状況において、道徳教育として大事にしなければならないことは何でしょうか。

感染症に関する不安や、距離をとった学習環境の中で、子供たちが心に抱えているものに目を向けていくことは、とても大切なことです。

児童生徒の実態を捉え直し、現下の状況において何を重点とするのかを職員全体で考え、あらゆる場面で、互いに学び合う思いやりのある雰囲気や、児童生徒同士の自主的で協力的な関係をつくっていくことが大切になります。

道徳教育全体では

○道徳教育全体計画の見直し

- ・ 現下の状況に対応した重点内容項目の決めだし
- ・ 各教科等における指導の充実 等



これをもとにして、各教科や全教育活動での推進を計画していきましょう。



例えば…子どもの心のケアを考えると…、「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「生命の尊さ」「公正、公平、社会正義」は大事になりそうですね。

このような状況においても、具体的な道徳的習慣や道徳的行為について指導を行うことがあるかと思いますが、道徳教育の目標として最終的なねらいとしているのは、指導を通じてそれらの意義を理解し、自らの判断により、進んで適切な実践ができるような道徳性を養うことです。

道徳科の年間計画では

○道徳科年間指導計画の見直し

- ・ 内容項目が1回ずつ入るようにし、35時間以上の指導を行う
- ・ 重点内容項目を複数回行えるように考慮する
- ・ 教育課程、行事に沿って内容配列の入れ替えを検討する 等

このような不安な状況においても、子供たちの道徳性が十分に生かされていくよう、道徳科を要としながら道徳教育を推進していくことで、子供たちの内面を養っていきましょう。

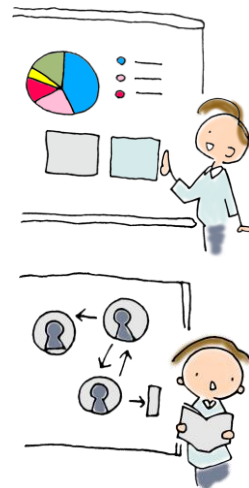


参考資料：「NITSオンライン研修（道徳教育指導者養成研修）」
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚秀彦氏 資料より
文部科学省 学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について（第2報）

01 導入での活用例

主題に関わる問題意識や、教材の内容に興味や関心をもてるようにする。

- 大型提示装置に生活場面の写真や映像を大きく提示する。
- アンケートツールを活用して収集したデータをその場でグラフ化して提示したり、前時の思考ツールの写真を提示したりする。



02 教材を提示する工夫の例

- 教材の場面絵や写真を大型提示装置に映し出しながら範読する。
- 登場人物の関係を図で示す。

03 話し合いの工夫の例

★多面的・多角的に考える活用例

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

①自分の考えをもつ

- 協働学習支援ツールを活用する

「規則の尊重」と「親切、思いやり」とのいずれの立場を重視するかについて自分の考えを選択し端末に入力する

②他者の考えを知る

- 端末で他者の考えを知る



③他者と議論する

相互の考えについて根拠に基づき、議論する

④全体で共有し考える

- 端末に入力した全体の考えを共有し、振り返りの中で考えを深める



★自分自身との関わりの中で深める活用例

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。

①他者と議論する

誠実とはどのようなことかを議論する



②自己を見つめる

- 自分が大切にしたい誠実な心に向き合っ、整理し、端末に考えを表記する

③教師が把握する

- 教師が端末に入力されたそれぞれの考えを把握・整理し、全体に共有する

④全体に紹介する

意図的に指名をして全体に紹介する

04 終末での活用例

子供たちがよりよい生き方の実現への思いや願いを深められるようにする。

- 自己を見つめ考えたことを端末に書き込み蓄積する。



「考え、議論する道徳」への転換を図る

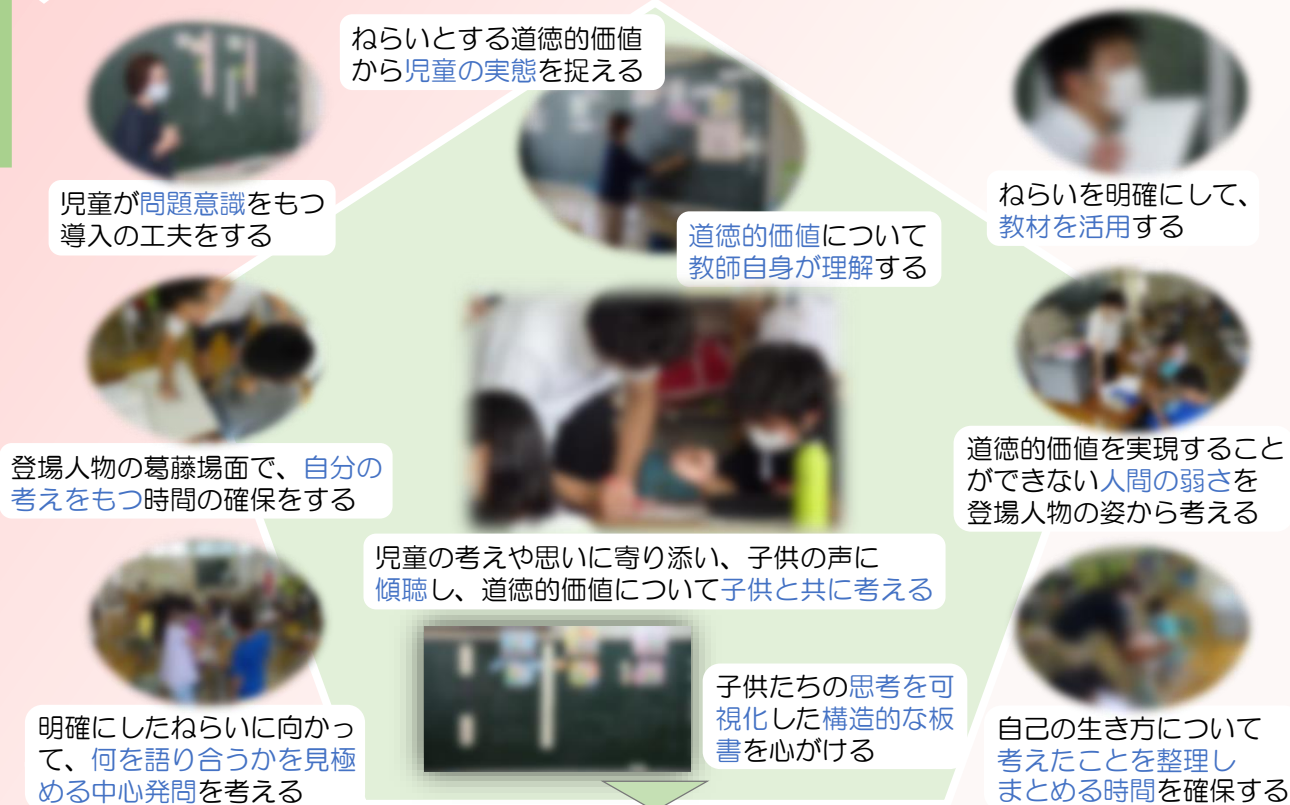
A 小学校の取組
授業者 B 先生



答えが1つではない道徳的な課題を、一人ひとりの児童が自分自身の問題としてとらえ向き合い、友とのかかわりを通して、自らを振り返り自己の生き方について考えを深める「考える道徳」「議論する道徳」の授業に向けたA小学校の先生方の挑戦。

実践事例

「考える道徳」「議論する道徳」を目指した授業実践からみてきたこと



さらに、自らの生き方について考えを深めるために…

B先生の子供の思いに寄り添う「考え、議論する」道徳授業の実践

主題名 友だちのために (内容項目 友情、信頼) 教材名「友の命」

「友だちとの友情を深めるために大切にしたいこと」の問題意識の共有、「どうしてデモンは、『ピシ阿斯君、なぜもう少し遅れなかったのか。ぼくは、君に代わりたかったのに…。』と言ったのだらう」と登場人物の思いに自分を寄せる発問と二人の関係から道徳的価値に迫る問い返し。

デモン

「友情、信頼」は双方向の関係

ピシ阿斯

磨き合い、高め合える関係の大切さを2人の姿から考える。

教師：どうしてデモンは「ピシ阿斯君、なぜもう少し遅れなかったのか。ぼくは、君に代わりたかったのに」と言ったのでしょうか。

児童：デモンが自分のために殺されたら、ピシ阿斯は一生罪みたいなものを感じながら生きていかなければいけない。

教師：どうして二人はこんなにも信じ合えたのだらう。

児童：前にも(二人は)お互いに助け合っていた。

児童：大切な友だちだから。



教師が道徳的価値に対する子供の課題を掴み、ねらいとする道徳的価値を教師が理解し、本時に考えたい道徳的価値を子供と共に悩み考え合うことが、子供が自分を見つめ、友とよりよく生きようとする道徳科の授業につながっていくと思います。

同一の内容項目の教材を 関連させた道徳授業

C 中学校の取組
授業者 D 先生



同一の内容項目を扱う際、複数の読み物教材にある登場人物の気持ちや葛藤を関連させ、生徒が過去の学びにおける自らの考え方を振り返ることができるようにすることで、道徳的価値の理解をさらに深めていく授業への試み。

主題名「自分で考えて行動し、行動に責任をもつ」内容項目：自主、自律、自由と責任
教材名 本教材①「許せないよね」（「きみがいちばんひかるとき」2年 光村図書）
関連教材②「カラカラカラ」（「きみがいちばんひかるとき」2年 光村図書）

実践事例

過去の学習を振り返り、その時の自己の考えを振り返る

本教材①をもとに「行動には責任が伴う」ということについて自己と向き合って考えられるようにしたい。そのために、同じ価値を扱った過去の学習②で「自分で考えて行動すること」を想起し、自己の考えを振り返ることができる場を設けたい。



教材①の
「香織」

自分でよく考えることなく、友を疑う千佳の言葉に安易に同調してしまったことから、友との関係が悪くなってしまった香織の行動について考える。

教材②の
「達也」

電車の中で転がる缶を拾おうと思ったが、友だちの視線を気にしてしまい行えずにいる達也の葛藤について、その時の自分の考えを確かめる。

達也ができなかったのはちょっとわかる

自分で決めたことでも難しい

二人の姿から、道徳的価値を改めて見つめなおす

二つの教材の登場人物の後悔から、「行動と責任」について考える。

道徳的な価値が実現されず、こんなつもりじゃなかった「香織」
実現させることの難しさの葛藤の中で、本当はこうしたかった「達也」

後悔はしたくないけれど、香織の行動に共感是可以

現実にはとても勇気がいるし、難しいことだと思う

自分で考えて行動し、
その行動に責任をもつとは
どういうことなのか



一面的な見方から
多面的・多角的に考えを発展させる



道徳的価値の理解を、
自分との関わりの中で深める

C 中学校の取組から学ぶこと

香織と達也の気持ちに関連付けて考えることで、自己の学びを振り返りながら、道徳的価値の実現の難しさを今の自分に引き寄せて考え、道徳的価値の理解をさらに深めていました。同一内容項目の教材を扱う際、過去の学習での自己の考えを振り返り関連させていく実践は、道徳的価値についての理解を深め、自己の考えの変容や成長を実感することにつながることが見えてきます。

そして、このC中学校の取組から、学校目標「自主、自律、愛他」の実現に向かうカリキュラム・マネジメントに主体的に参画する教職員の姿も学ぶことができました。